

「リバウンド」

社長 宮本 慶太

随分、春めて暖かくなってきました。元々自転車が好きで、ロードバイクを一台持っていました。ただ運動になればと思いきや向いた時に(雨、雪、風、寒さ、二日酔いの時は飲酒運転なので除いて)チョコチョコ乗る程度でした。やがて仕事が忙しくなり乗る回数が減って、やがては「お座敷自転車」と化してしまいました。

何回か前にダイエットをしたことを書きましたが、現在はリバウンド状態です。運動はしない、年齢だけはどんどん重ねていく、となるとご想像の通りメタボまっしぐらになります。私の場合リバウンドなので、気がついたら「あ」と言う間にメタボに逆戻りでした。先日の一泊二日の先生からも注意を頂きました。お腹ポッコリで家族からも心配されるようになり、さすがにこのままではまずいと思ったのですが、なにせ冬で、まともな運動は出来ません。

食事制限は始めましたが、忘年会、新年会、総会、その他仕事上の付き合い、私的な付き合いと、例年になく回数が多い。辛い割には微減が精一杯。基本的にアルコールは大好きですので、飲む習慣がリバウンドしてしまい減量の時に困った習慣がなくなってしまうました。悩んでいたところ目の前に「お座敷自転車」がいるじゃないですか。天気の良い日に、温かい服装で外に出てみました。寒い。スピードを上げると風が突き刺す痛さです。三十分で終了です。ついでに、持病の腰痛まで出てきました。今は、週に二回ぐらいはプールに行く位です。

さて、三月に入りました。どんどん暖かくなります。服装も薄くなってきます。お腹ポッコリが気になります。なによりメタボは体に悪い。これを書きながらそう考えました。来年のこの時期にまた原稿を書く事になります。楽しい原稿が書けるよう頑張ります。

「沢カニ合戦」

設備工事部課長 五十嵐 利幸

まだストーブを片付けられませんが、寒かった冬も終わろうとし春がやってこようとしています。

昨日は、展示会も終わり久しぶりの休日でした。天気もいいし、暖かいしということで、下の娘と私の父と三人で家の近くの山へ沢カニを探りに行く事になりました。私も十年位前に行ったのが最後でした。

沢カニはチョコチョコ水が流れているか、流れていないかという砂利や岩の下を掘りおこし、まだ冬眠しているカニを探ります。娘はちよつと前にも父と来たらしく、山に入ると得意げに私に取り方のレッスンが始まりました。カニが出てきて、カニを探ろうとしハサミではさまれたらしく、「ギター」と山に響き渡り冬眠していたカニも全部逃げてしまおう勢いでした。

そんな感じで久しぶりのゆつくりした休日を、半日山の中で過ごしてきました。また、近所の人達も呼んで夜はそれをつまみにイッツパイ飲み、大変おいしくいただきました。カニは雑食で、冬眠が終わるといろいろな物を食べるため、これからは食用にはならないそうです。あとサンショウウオも六匹ほど採って来ましたが、しばらくペットしてかうそうです。



「愛車」

石油部 国道給油所所長 小形 楨

今の車を購入して、三月で五回目の車検を迎えます。

購入当時は、その時乗っていた車だと子供を乗せて遠出が出来ない事と、十四年間乗っていたので税金が上乗せされるということで渋々車探しをした事を覚えています。室内も広く、デザイン的にも妥協できた「ライオン」を購入しましたが、特に欲しいと思って買った車ではなかったし、他に乘っている方は、ほとんどお年を召した方ばかり。走りもいまいち……。マニュアルでターボ付き、カタログ値二百十五馬力の車から、燃費重視のCVT、NAエンジン二百二十八馬力への乗り換えなので、最初は不満だらけでした。

この時は、まだこの車を弄らないつもりでしたが、せめて外見だけでも若くしたくてホイールのインチアップしたのがこの車の弄り始め。一つ弄り始めると止まらなくなるのが、車弄りが趣味の悪いところ……。エンジンとボディ自体はノーマルのままですが、気付けばタイヤは seventeen、車高は下げているし、電球関係（ライト関係）は全て純正品以外になっていました。

不満なところを弄っていくにつれ愛着もわき、今では大満足とまでは言えませんが、家族でいろいろな旅行をしたり、車を通じての知り合いをたくさん作ってくれたり、数多くの思い出を作ってくれた大事なかわいい愛車となりました。

そんな愛車も走行距離が十一万キロ間近となり、あちこち小さな故障も出始め、ボディ自体も少し弱ってきたので、これからは車弄りから車維持りにかえて、あと何年乗るかかわかりませんが大事に乗って、まだまだ沢山の思い出を作ってもらおうと思います。

「親になって思うこと」

建材営業第一部 佐藤 洋樹

一昨年の結婚記念日に、妻から妊娠したと聞かされ、嬉しい反面とまどいもありました。自分が父親になるという実感はありませんでしたが妻のお腹が大きくなるにつれて、現実味をおびてきました。

八月二日の夜中から少しづつ陣痛がきはじめ、三日朝には、だいぶ痛みがあるようでした。その日は朝から早番だったので、心配ながらも出勤しました。八時まで早番をして早退させてもらいました。病院に連れていくと、まだ出ないという事で一旦帰宅しました。陣痛が来るたび妻の背中をさすることしかできず、子供を産むことの大変さを目の当たりにしました。二十一時すぎに病院に入院し、生まれるのが朝方になるかもしれないと言われたのにも関わらず、いつの間にか破水しており、急遽分娩室に入られました。立ち会い出産だった為、自分も妻の非常に痛がる姿を見て、不安と早く子供が出てきて楽になってくれればと思いつながら背中をさすっていました。我が子が出てきて男の子だとわかり涙ぐんだのを覚えています。今では七ヶ月になり、ちゃんと父親をやれているかは、わかりませんが自分でできることをやり妻を支えているつもりです。父親になって改めて子供を育てる大変さを実感しています。大変とはいえ、楽しいことも、一緒にやりたいこともあり、一つは毎年の祭りに出ることです。祭りというと、生まれただけの子供を妻に任せ、七夕祭りに出ているだけに、何かあるたび怒られます。

結婚してから、子供ができるまで色々なことが早く、毎日がめまぐるしい生活ですが、妻と二人で肩ひじはらずに、楽しく子供を育てていければ良いと思います。口にはあえて言いませんが、妻には心から感謝しています。朝、自分より早く起き、弁当を詰め、昼間は家の事や子供の世話。週末には、金、土曜日と生活のため、アルバイトに出ています。これからも自分のことは後回しでも、妻と子供の事を一番に考え、自分の親に負けないよう、感謝の気持ちを忘れず、仕事に子育てに打ち込んで行きたいと思っています。

編集後記

お忙しい中、原稿を寄せていただいた皆様ありがとうございました。まずは、宮作だより第六十号おめでとうございます。第一号は今から約一五年前の平成十四年六月二八日に発行されました。一五年前になると、恐らく、私は小学校に入学しているぐらいの頃だと思われます。それが今やただのオッサンになっているなんて・・・一五年前は思ってもいなかったです。

先日の休み、ワンダーコアで腹筋しながら久しぶりに宮崎駿監督の「紅の豚」を鑑賞。風の谷のナウシカ、天空の城ラピュタ、魔女の宅急便、千と千尋の神隠し、と数あるジブリ映画。その中で、空を飛ぶ乗り物がすきな私のお気に入りの映画である。キヤッチャッピーが「カッコイイとはこういうことだ」という通り、カッコよく、見ていると時間を忘れられる。大恐慌時代のイタリヤのアドリア海、まだ空が戦場になる前のこと。飛行艇という乗り物で男たちが自らのプライトと、時には自分の飛行技術の腕を競うために青い空を優雅に、激しく飛んでいく。登場人物のほとんどが男ばかりで集まっては馬鹿なことばかりしているがそれも愛嬌。出てくる女性はバーのマダム・ジーナと、主人公マルコが頼りにする飛行艇屋の家族であるおぼちやん方と新しい飛行艇の設計・メンテナンスを買って出る少女フレイオべらい。

友人たちにこの映画について話すとき大抵が「そんな映画が面白いのか？空飛ぶだけでいいなら魔女宅急便（魔女の宅急便）か、風立ちぬで良くない？大体それジブリ映画なの？」と言われる。私の説明がわかりにくいと感じてはいるが、見ている楽しいものを言葉で伝えるのは容易ではない。だから実際に見てくれとしか言えない。そして、翌日に映画を見ながらワンダーコアなんて慣れないことをするせいで筋肉痛になったというのはまた別のお話。

今回の原稿は、監査役、藤原主任、富樫さん、中山友晴さんをお願いします。